

ユニバーサル農園奮闘記

『農福連携は、
一日にして成らず』

MYPユニバーサル農園

理事長

増井 義久

MASUI YOSHIHISA

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



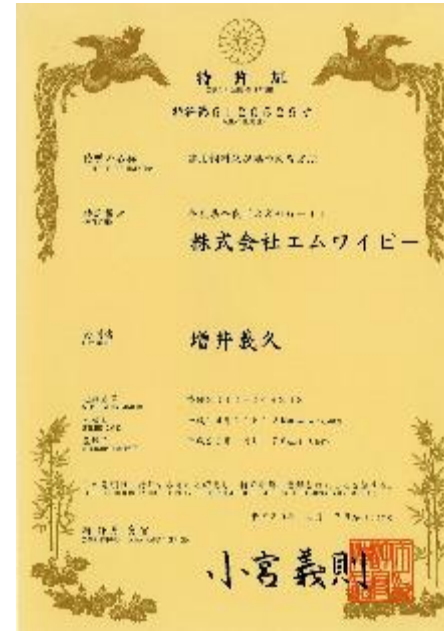
ノウ フク



増井 義久

MASUI YOSHIHISA

- 肉検定 お肉博士1級
- 食鳥処理
- 唎酒師 (ききざけし)
- 農福連携技術支援者
(農林水産省認定)
- 鶏の飼育方法で特許所得



2023/5
1984 2020

ノウフク



名駅IMAIビル

MYPユニバーサル農園

Image Landsat / Copernicus

Google Earth

地域概要

ノウ フク



所在地は奈良県奈良盆地北部の帯解寺付近

帯解寺（皇族の安産祈願でも有名）

市街化調整区域の農地

人口約3000人 近くに警察学校や住居に囲まれた地域

農業経営基盤強化法 濃福連携特例



法人概要①

株式会社エムワイピー (3次産業)

- 平成2年 飲食店経営
- 令和3年 そば処 二条
- 令和4年 MYPグループホーム左京



法人概要②

有限会社MYP食品 (食品加工 2次産業)

- MYP食品作業所
就労継続支援A・B型
(GYOZA餃子製造販売所)
- 新大宮相談支援センター
- MYP放課後等デイサービス
- 子ども料理教室 (子ども食堂)



就労継続支援B型 (GYOZA餃子製造販売所)



法人概要③

NPO法人エムワイピー農場 (1次産業)



令和2年 NPO法人として設立

MYPユニバーサル農園 就労継続支援B型（申請中）

農業委員に相談、農業経営基盤強化法の農福連携特例

福祉サービス事業としては農地では登録できない、農地法・調整区域

補助金（農山漁村振興交付金：農福連携対策）に挑戦

奈良県・奈良市に相談



農山漁村振興交付金 (農福連携対策) 農福連携支援事業



- 農福連携技術支援者カンファレンス
- 収穫祭・ならアートクラフトフェア
- 砂栽培マニュアル



農福連携技術支援者カンファレンス

どなたでもご参加頂けます。

農福連携を現場で実践する手法を具体的にアドバイスできる専門人材を育成するため、令和4年度 農福連携技術支援者カンファレンスを実施します。

●日時 / 2023年2月10日(金)
●会場 / YouTube ライブ配信

QRコード
後日アーカイブ配信します
<https://youtube.com/live/c8Q0k3xEOBQ?feature=share>

プログラム
2月10日(金)
12:30頃～
●はじめの挨拶
12:35頃～
●田邊 望 (自治体職員/コーディネーター/講師) 研修-講師
●ユニバーサル講師、農福連携が持つ「力」とその「未来」
●参加者からの「懸念」の解消について語り、やりあいを体験する。

14:00頃～
●藤岡 和俊 (社会福祉法人/コーディネーター/講師) 講師-講師
●つなぐ農福連携
●農福連携の現場で実践する「力」とその「未来」
●参加者からの「懸念」の解消について語り、やりあいを体験する。

14:25頃～
●羽熊 広太 (社会福祉法人/コーディネーター/講師) 講師-講師
●誰でもできる農産物加工
●参加者からの「懸念」の解消について語り、やりあいを体験する。

14:55頃～
●石崎 信也 (社会福祉法人/コーディネーター/講師) 講師-講師
●農福連携でつなぐ連携
●参加者からの「懸念」の解消について語り、やりあいを体験する。

15:00頃～
●鈴木 健太郎 (社会福祉法人/コーディネーター/講師) 講師-講師
●「農福連携によるレタスのハウス栽培技術のポイント」

15:55頃～
●谷川 照美 (社会福祉法人/コーディネーター/講師) 講師-講師
●農福連携への道しるべ
●参加者からの「懸念」の解消について語り、やりあいを体験する。

16:25頃～
●齋藤 恒博 (社会福祉法人/コーディネーター/講師) 講師-講師
●政府支援施設での新たな働き方
●参加者からの「懸念」の解消について語り、やりあいを体験する。

MYP農福連携収穫祭

13:30～15:00
場所: 生駒子製法研究所 (MYP GYOZA 店舗前)
〒830-8115
奈良市大宮町8丁目6番地の11
ウインズビル

期間限定
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

主催 / 特定非営利活動法人エムワイビー農場 〒830-8115 奈良市大宮町8丁目6番地の11 ウインズビル 2F TEL 0742-33-7211



農山漁村振興交付金

(農福連携対策・高度経営型)

農福連携整備事業

- 低コスト耐候性ハウス

H5m×8m×47m 1棟
H5m×8m×40m 2棟

- 砂芝居ベンチ

H700×1250×38m 12本
H700×1250×5m 育苗 1本

- 自動かん水機

- 自動換気 3機



ノウフク



目標

- 交流人口（収穫祭）
- 障害者雇用・就労
- 売り上げ
- 年間 8 回転



レタス栽培計画

- 砂栽培による年8回の連作
- 500株(1レーン)×12ベンチ×8回／280日
- 170個(1日の収穫)
- 就労継続支援B型事業所 の開設による給付金 (定員20名)



農福連携（6次産業化）MYPの問題点

- 農家
 - 利用者一人一人の状況が理解できない
 - 利用者のチェック・見守りする時間がない
- 福祉
 - ほとんどがスタッフの問題である
 - 農業の基本がわからない
 - トイレ・休憩などの場所が欲しい
 - 利用者の代わりに働いてしまう
 - 利用者優先をいいわけて仕事をかっけてに縮小してしまう
 - 利益を上げるとゆう考えが無い
 - 食品加工の仕事ができない



なら近大農法 (ICT農法)

(ハイテク)

- ICT 情報通信技術
- ICTによる農業のDX
(デジタルトランスフォーメーション)
- デジタル化により
社会や生活の形・スタイルが良い方向に
変わること⇒ユニバーサル農園
- **なら近大農法** = 奈良県×**近畿大学農学部**



ICT農法



ノウフク



自動かん水

養液栽培

マニュアルによる栽培

自動室温調節

監視カメラ

自動遮光ネット
巻上げ装置



MYPユニバーサル農園栽培計画（目標値）

農福連携とSDG S・カーボンニュートラルの挑戦

- ① ICT農法(ハイテク) と砂栽培にユニバーサル農法の実施
- ② 4月～7月・8月～11月 年2回のメロン栽培
3棟のうち2棟(8ベッド)で1回4000個(1ベッド500個)、
平均1.2kg @1,500円、4000個@1,800円=720万円(1回)
レタス 1棟平均100g @150円、2000個@150円=30万円
- ③ 11月～4月 レタス栽培
3棟のうち3棟(12ベッド)で1回8400個(1ベッド500個)、
平均100g @150円、6000個@150円=90万円
- ④ 1,620万円/年間
- ⑤ 耕運機など化石燃料を使用しない



MYPユニバーサル農園

農福連携支援事業 として

- 農業を楽しむ 多くの市民に農福連携を知ってもらう
 - ① 7月・11月にメロン狩りを実施
 - ② MYP作業所で作った餃子販売
 - ③ レタス餃子 メロンアイスクリーム等の販売
 - ④ 利用者さんのレクリエーション

MYP 食品作業所

就労継続支援B型

19人

工賃



規定	工賃	
1	30日	200円
2	30日	210円
3	30日	220円
4	30日	230円
5	30日	240円
6	30日	250円
7	30日	260円
8	30日	270円
9	30日	280円
10	30日	290円
11	30日	300円
12	30日	310円
13	30日	320円
14	30日	330円
15	30日	340円
		350円

9人

6人

規定	工賃	
自動車 高い技術 納品	500円	4人
上記 +α	886円	1人
	890円	2人
令和4年	平均工賃	376.5円
令和4年	月平均	23,711円
現在	登録	22名

まとめ 新しい時代に向かって

- 地産地消
- 就労人口の減少と高齢化
(農業だけでなく飲食業も)
- 楽しく生きがいのある生活
- 力を合わせホローしあえる仕事環境
- ICTなど最新の技術を活用する

